
涙の訳

THEAF

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

涙の訳

【Zコード】

Z6370D

【作者名】

THEAFF

【あらすじ】

不思議な少女との出会いによって、一人の少年が大きな人生の経験をする。

(前書き)

初投稿なので、かなり辛かつたですね。自分なりには、頑張りましたが、もっと長く書きたかったですね。こんな恋をしてみたいと思ってくれると幸いです。

風が目の前を通り過ぎる。僕は、反射的に目を閉じる、そして、再び開くと10歳位の少女が立っていた。 びっくりして思わず息を飲んだ。

「誰？」

少女が小さな唇で呟く。驚きのあまり何も言えないでいると、再び「誰？」と聞かれた。

「青山 武って言つんだけど、お嬢ちやんは？」

「フーン、私は木下 由紀、宜しくね」
いたつて普通の挨拶をする。少女は、じりじりとこっちを見て、にっこり笑い、お辞儀をして向こうへ行ってしまった。

た。

それからといふもの、一日中、少女のことを考えてしまつてゐる。ぼーっとしながら、歩いてゐると、少女に会つた場所に再び来てしまつた。

『何しているんだろ、俺』 そう思い、帰ろうとしている。
「青山 武さんですか？」と後ろから話かけられ、驚きながら振り向くと、60歳位の紳士のような老人が立つていた。

「あつ、はい」

気の抜けた返事をした

「突然で申し訳ありませんが、由紀お嬢様にもう一度、会つて頂けないでしょうか？」

状況が全く把握できていなかつたが、会いたいという気持ちが大きかつたので、会いに行くと即答した。連れていかれてみると、豪邸

としか言えない家があつた。啞然としていると案内役のような人に奥へと急かされる。大きな部屋に出た。そこには、家具が殆どなく、有るのはベットだけだった。ベットに近寄ってみると、誰かが眠っていた。誰だか分からなかつたというより、分からうとしなかつた、分かりたくなかつたのだ、少女がこの前に、会つた時とは別人のようにガリガリに痩せ細つてしまつている現状を見て・・・何故だか涙が止まらなかつた。

そして、今気づいた。

私は、彼女に恋をしていたのだと・・・

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6370d/>

涙の訳

2011年1月1日10時19分発行